



まなびや

東市ヶ尾



百聞は一見に如かず — 豊かな体験の中で納得する大切さ —

校長 後明 好美

先週の土曜参観には多くの保護者の方々に来校をいただき、ありがとうございました。これまでは寒い時期に土曜参観を実施していましたが、暖かい年度初めの方が新型コロナウイルス感染症の拡大が少ないことを鑑みて、本年度は5月末の実施といたしました。4月の参観と近い日程となってしまいますが、より多くの保護者の方に子どもたちと先生の学びの様子を見守っていただきたいと考えて判断いたしました。御意見等、お聞かせいただけると幸いです。

タンポポからわかったこと

毎朝、南門と北門に交互に立ち、子どもたちと挨拶をしていると、子どもたちとほんの一言話ができたり、笑い合えたりします。昨年度の学校だよりにも書きましたが、門に立って子どもたちを迎えることは、私にとって学校に来る楽しみのひとつともなっています。

5月のある日、門に立って挨拶をしていますと、2人の男の子が「はい！」とタンポポを渡してくれました。「どうしたの？」と尋ねると、「すごいたくさん生えてたから。」と答えてくれました。子どもたちがくれる季節のプレゼントはとてうれしいので、「ありがとう。校長室に飾るね。」と2人に話しました。

可憐なタンポポにふさわしい花瓶はないので、小さな皿に薄く水を張り、そこにタンポポの茎を沈めて、来客用の机に飾っていたのですが、夕方には萎れてしまいました。2人の子に申し訳ないと思うとともに、「やはりしっかり水に挿してあげないとだめだったのだな。」と思いましたが、諦めきれずにもう一度水に茎を浸して帰宅しました。

次の朝、校長室に入ると、タンポポが元気に咲いていました。びっくりするのと共に、「光に反応する植物だったのか。夜は花を閉じるんだ。」とわかりました。お恥ずかしいことなのですが、タンポポにそのような性質があることを私は知らなかったのが、春の素敵な季節のプレゼントから、科学的なことを知ることができた、嬉しさが発見につながる出来事となりました。「はい！」と登校途中で摘んできたタンポポを渡してくれた2人の子に、「ありがとう。あなたたちのおかげで知らなかったことを知ることができたよ！」と感謝を伝えたい気持ちでいます。

納得してわかる大切さ

「タンポポは光に反応する植物で、夜になって光が当たらなくなると、花を閉じます。朝になって光が当たるとまた花は開きます。」と、本を読んだり人から教えてもらったりしても、もちろん理解はできますが、あまり印象に残らず、長期記憶には耐えられそうもありません。一方、実際のタンポポの様子を目の当たりにして分かったことは、そのときの感動とともに、いつまでも自分の記憶に留まるように思います。「百聞は一見に如かず」とはまさにこのことであり、学校ではこのような「実際にやってみてわかったこと」「自分で見て・触れて納得したこと」といった豊かな体験の中で知識や概念を獲得することを大事にしていきたいと、改めて思いました。

2人の子のおかげで知ることができたタンポポの性質のこと、そして実際に見たり体験したりしてわかる面白さを全校の子どもたちに伝えたいと、次回の朝会を楽しみにしています。

6月もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。